

笑ってごらん

第 526 号 H. 27. 10. 8 発行

～今日のことば～

成功とは、意欲を失わずに

失敗に次ぐ失敗を繰り返すことである。

(チャーチル)

◇◆いきなりクイズ！ 「ここに1時間ちょうどで燃え尽きる蚊取り線香が2本ある。これを使って45分を計る方法を述べなさい」…さて、どうする？ クイズ好きの皆さんにとっては簡単すぎたであろうか？ ◇◆2日連続日本人がノーベル賞受賞に輝いた。北里大学特別荣誉教授の大村智氏(80)がノーベル医学生理学賞受賞。そして、東京大学宇宙線研究所所長の梶田隆章氏(56)がノーベル物理学賞受賞。両名の受賞理由となった研究内容については新聞等報道を参考にして欲しい。両名ともスポーツ万能で、大村氏は大学時にスキーマの国体選手だったらしいし、梶田氏は大学時代に弓道で関東大会団体優勝の主力メンバーだったという。◇◆3日(土)、オープンスクールを行った。計4日計画の1日目となる今回は近隣の中学校対象。夏の体験入学と異なるのは、秋のオープンスクール参加者は志望学科をしっかりと定めて来ているため、本校で用意している学科体験メニューへの取り組み姿勢が総じて真剣であること。今回もそれぞれの学科の体験学習に楽しく取り組んでくれた。◇◆翌4日(日)、本校吹奏楽部の定期演奏会があった。4部構成で曲数も多く、練習・準備が大変だったと思うが、部員たちは元気よく演奏してくれた。中には北九州からこの日のために駆けつけてくれた卒業生もあり、OB・OGを交えての素晴らしいひとときになった。耳馴染みの曲が多く含まれていたため、個人的にも口ずさんだりして楽しめた。最後はマーチングドリル。機敏な動きでかっこよかった。受験のため今回で最後の活動となる3年生部員にとっては感慨深いステージであったと思う。たくさんの家族・関係者が来場下さっていたが、望むらくはまだまだたくさんの方々に来ていただきたいと思う。部員の皆さん、お疲れ様。



感謝道

◇◆またもやラジオネタ。今回は中国におけるPC環境について。私達はこのような文書を作成する際、ワープロソフトを使う。そして、入力する段階で、カナ入力とローマ字入力のどちらかを選択する。英語圏の国においては当然のごとく英語で入力することになるのであろう。では中国ではどうか。基本的に中国で使用する文字は漢字しかない。それも私達が使う漢字とはずいぶん違う(もちろん同じ漢字もある)。日本語においてはカナ入力だろうとローマ字入力だろうと、最初に「ひらがな」で単語を表記し、次の作業でその文に適する「漢字」に変換する。中国においては大きな国ゆえに各地方によって方言も多いために、入力にあたってはまず「標準語」を使うことが求められる。そして、ここからが難しいのだが、中国にはピンインという発音表記法があり、必ずこれに変換した上で入力しなければならないという。それぞれの発音に適合したピンインが存在し、所定のものでないと意味が通じなくなるらしい。日本には「ひらがな」があるので方言であろうと入力することができる。また、うまく聞き取れないにしても聞き取った音をカタカナで表記することもできる。中国では方言のピンインはPCが受け付けないという。◆もっと言えば、日本語で「あ」は『あ』と発音することができるが、英語では「A」と書いても『あ』と発音するのか『え』と発音するのかわからない。ある程度文字数を重ねて単語のような文字の塊にしないと発音できないのである。確かに…。こう聞くと、「日本語って便利だな」と思う。まあ、それぞれの国においては比較対象となる他の入力方法など無いのだから、どんなに面倒くさかろうと、その入力方法に慣れるしかない。そして皆、当たり前のようにPCに向かって。何も問題にするようなことではないのだ。ただひとつ言えることは、日本語入力に慣れてしまった今の私にとって、中国のピンイン入力などは「ムリ！」と言わざるを得ない(また勉強する気も無い)。